

あなたの街の
ドクターが
アドバイス



さまざまな症状があるてんかん
「高齢者てんかん」も増えています

痙攣しました! てんかんですか?

痙攣(けいれん)というと、一般的には全身が震える状態を思い出す人も多いかと思えます。痙攣は、発熱(高熱)、感染症、電解質異常、薬物、頭蓋内病変(腫瘍、外傷、低酸素脳症ほか)など、さまざまな原因で起こります。必ずしも痙攣Ⅱ「てんかん」ではありませんが、痙攣の原因の一つに、てんかんがあります。てんかんの症状には、痙攣だけではなく、動きが止まりぼーっとする、手足をもぞもぞさせる、光がちらちらする、腕力を立てなくなるなど、さまざまなタイプがあります。

もし近くに、いる人が体をびくびくさせたり、意識がなくなる発作をおこしたら、まず周りにあるストープ、やかん、刃物などの危険物を排除し、倒れている人がけがをしないように広い場所を確保します。そして、襟元やベルトを緩めるなどの処置をしてください。激しく突っ張ったり、ガクガク痙攣している場合は、窒息したり舌をかむことがあります。その際は、下あごに手をあてて上唇あたりを手で押さえ、气道を確保してください。割り箸やタオルを口に入れるのは、口の中を傷つけて窒息の原因ともなります。危険なのでやめましょう。

また、痙攣を起こした本人がそのことを覚えていないケースも多くみられます。いづれでどのような始まり、どのくらい続いたかという症状の観察は、診断と治療にとっても有効なので、目撃した人はできるだけ診察に同伴してください。携帯電話で動画を撮るのも有効です。

てんかんは紀元前7世紀には既に知られており、現在、全国で約100万人程度と、多くの人が罹患(りかん)しています。新生児から高齢者まで幅広く発症しますが、高齢者の人口増加に伴って、初発の「高齢者てんかん」も増えています。必ずしも痙攣を伴わず、異常行動や認知症のような症状が現れる場合もあります。これらの症状はてんかんが原因の場合、「抗てんかん薬」の服用で消失します。話しかけても上の空で聞いていないことが時々ある、というような場合は、一度「脳波検査」を受けて調べてみるのも良いかもしれません。



お話ししてくださいました先生

札幌宮の沢脳神経外科病院
神経内科

井上 周子 先生

平成5年東京女子医科大学卒業。日本神経学会専門医。日本内科学会認定内科医